

家庭・地域との連携を深めるための情報発信の在り方に関する研究

－学校ウェブサイトにおけるブログ活用の可能性を探る－

情報教育研修課 主任指導主事兼課長 河合 良成

指導主事 岩井 高士

指導主事 米谷 繁

指導主事 坂本 泰三

はじめに

学校から保護者や地域住民へ情報発信する必要性について、文部科学白書¹⁾には「学校は、保護者や地域住民の信頼にこたえ、家庭や地域社会と連携協力して、地域全体として子どもたちの成長を支えていくことが求められています。このため、学校は、学校運営の状況について自己評価を行い、その結果を含めて保護者などに積極的に情報提供することを通じて、説明責任を果たしていくこと、すなわち地域に開かれた学校づくりを図ることが必要です。」と示されている。このことは、家庭・地域との連携を深めるためには、学校の様々な情報を保護者や地域住民に積極的に発信していくことが重要であることを意味している。学校情報の発信方法については、内容により様々であるが、一つの方法としてインターネットを利用したウェブサイトによる情報発信がある。

近年、本県では、学校のICT環境の整備が進み、ほとんどの公立学校が学校ウェブサイトを開設し、学校運営や教育活動に関する情報発信を行っている。しかし、学校によっては、情報発信の内容や更新頻度に差があり、古い情報が掲載されたまま放置されている学校も少なくなく、情報発信の手段として十分に機能していない場合がある²⁾。このことは、学校ウェブサイトにおける情報発信の方法に何か原因があるのではないかと考えられる。

そこで、これらの原因を究明し、学校が適切な情報発信を行うためには、どのように学校ウェブサイトを構成し、運用・管理するかという発信方法を検討する必要があると考えた。

本研究では、県内の公立学校における、従来の学校ウェブサイトによる情報発信の方法を分析することで、手軽で簡単な情報発信のしくみについて検討し、そのしくみを取り入れたウェブサイトモデルを提案することを目的とした。

1 本県における学校ウェブサイトの現状と課題

本年度当所で実施した研修講座のうち、「教育の情報化」に関する講座受講者を対象に、各学校からの情報発信の在り方についてアンケート調査を行い、各校の現状を把握するとともに、県立学校の学校ウェブサイトについて、情報の発信方法の現状と課題の分析を行った。

(1) 学校ウェブサイトの現状

ア 学校ウェブサイト開設状況

表1に示すとおり、平成22年3月時点での本県の公立学校の学校ウェブサイト開設状況は、校種全体で97%となっており、全国平均86%と比較しても開設率は高くなっている³⁾。このように、ほぼ全ての学校がウェブサイトを開設している状況である。

表1 学校ウェブサイト開設状況

校種	本県	全国
小学校	608(95%)	18260(84%)
中学校	263(98%)	8327(83%)
高等学校	156(100%)	3833(99%)
特別支援学校	35(100%)	955(99%)
中等教育学校	1(100%)	25(100%)
全体	1063(97%)	31400(86%)

文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果
(平成21年度)」より

イ アンケート調査から

当所で実施した「教育の情報化」に関する講座受講者95名に対し、学校ウェブサイトの運用面と掲載内容の、それぞれの「重要度」と、それに対する「自校の満足度」についてアンケート調査を行った。

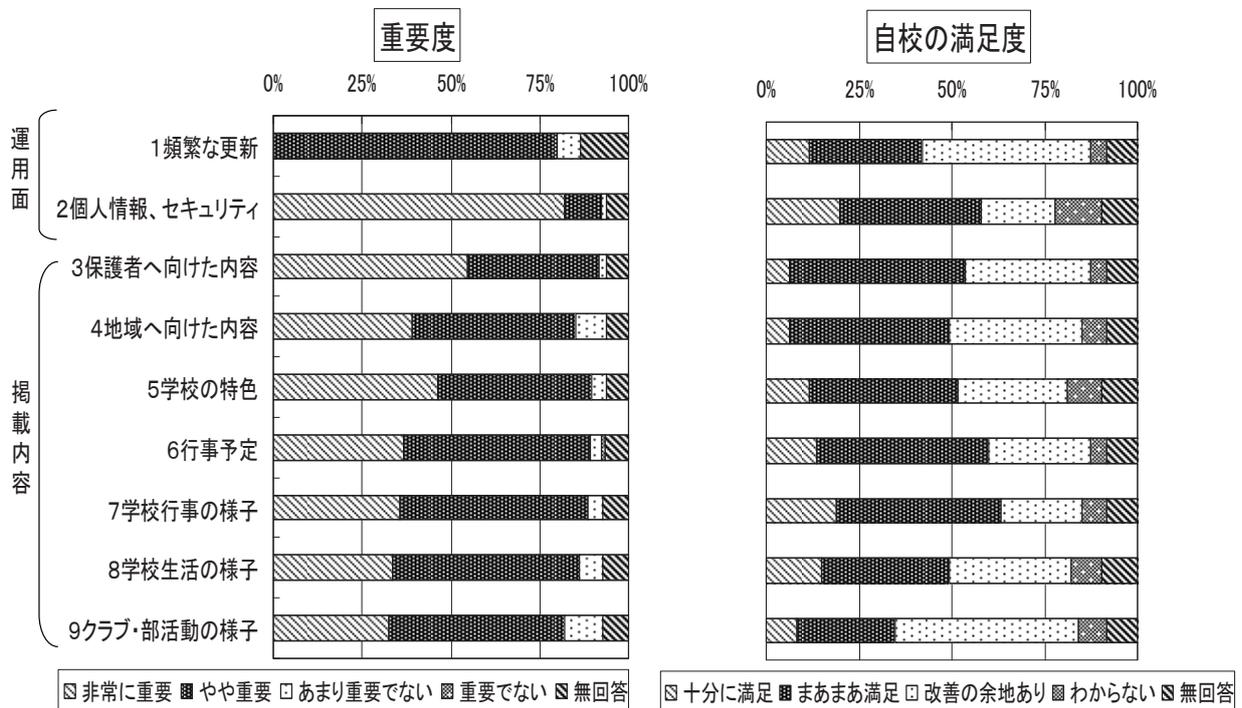


図1 学校ウェブサイトの重要度と自校の満足度

図1に示すとおり、「重要度」について、運用面の項目にあたる「頻繁な更新」と「個人情報、セキュリティ」、掲載内容の項目にあたる「保護者へ向けた内容」「地域へ向けた内容」「学校の特色」「行事予定」「学校行事の様子」「学校生活の様子」「クラブ・部活動の様子」で、「非常に重要」「やや重要」「あまり重要でない」「重要でない」という4件法で回答を求めたところ、「非常に重要」と「やや重要」といった重要度が高いととらえている回答が多いことがわかった。同じ項目で、「自校の満足度」について「十分に満足」「まあまあ満足」「改善の余地あり」「わからない」という4件法で回答を求めたところ、ほぼ全てにおいて「十分に満足」と感じている回答が少ないことがわかった。

さらに、ウェブサイトの作成経験についてのアンケートでは、ウェブ言語（HTML）⁴⁾とFTP（ファイル転送プロトコル）⁵⁾の活用経験があると答えた教員の割合は21%と少なく、多くの教員が、それらの知識や活用経験がないという現状がわかった。

(2) 学校ウェブサイトの課題

学校から発信する情報の種類について考えた時、その情報の種類は様々であるが、その中で、情報の有効期間が長いものや短いものがある

ことに気が付いた。例えば、図1の「学校の特色」は、年度当初に更新すれば、年度内は内容に大きな変更はない。しかし、「学校行事の様子」は、様々な行事が終わるごとに情報発信する必要がある。このことから、学校ウェブサイトの掲載内容をより細かく分類し、整理することで、発信方法の課題を探ることができると考えた。そのためには、学校ウェブサイトに掲載されている情報を、その有効期間と更新頻度で定義しておく必要がある。

表2 「ストックの情報」と「フローの情報」

	ストックの情報	フローの情報
有効期間	長い	短い
更新頻度	年1回程度以下	1週間から学期に1回程度

そこで、本研究においては、表2に示すように、情報としての有効期間が長く、年1回程度以下の更新しかならない内容を「ストックの情報」、情報としての有効期間が短く、1週間から少なくとも学期に1回程度は更新する内容を「フローの情報」と定義することにした。

ア 運用について

図2は、文部科学省による「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（平成21年度）」から本県の公立学校の学校ウェブサイトの更新状況を抜粋しグラフ化したものである。それによると、約21%の学校ウェブサイトが週1回の更新状況で、残りの約79%の学校ウェブサイトが月に1回から年1回以下の更新状況となっている。

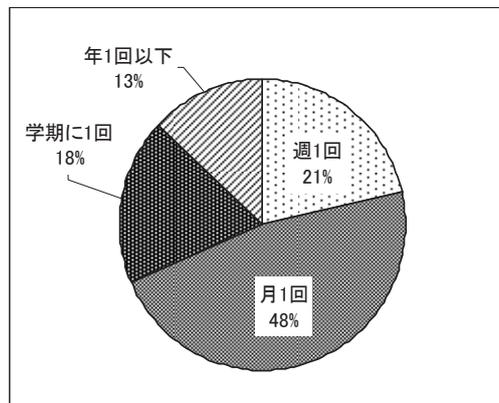


図2 本県公立学校ウェブサイトの更新状況

表3は、平成19年に当所において分類した本県の公立学校の掲載内容⁶⁾を「ストックの情報」と「フローの情報」に整理したものであるが、本県公立学校ウェブサイトの掲載内容は、「ストックの情報」が26.4%「フローの情報」が73.6%を占めていることがわかった。

表3 本県公立学校ウェブサイトの掲載内容の分類と割合

掲載内容の分類		掲載内容の例	全体に占める割合	情報の種類
学校概要		校長挨拶、教育目標、教育課程、児童生徒数	12.2%	ストックの情報
案内・各種手続		Q&A、サイトマップ、授業料、証明書	5.5%	
学校評価		学校評議員、学校評価結果	0.2%	
健康・安全		健康管理、出席停止、非常時の対応	4.1%	
研究・研修		研究推進、研究会案内	0.7%	
進路関係		進路状況、高校入試	1.9%	
P T A・同窓会		会長挨拶、規約、広報紙、総会	1.8%	
活動の様子	特色ある取組	あいさつ運動、地域活動、事業関係	2.3%	フローの情報
	学習活動	環境教育、国際教育、課題研究	8.9%	
	行事	式典、運動会、音楽祭、文化祭、修学旅行	24.0%	
	教科外活動	部活動、クラブ活動、生徒会活動	11.7%	
	活動全般	上記活動の様子に区別できないもの	16.2%	
広報紙		学校だより、学年通信、保健だより	10.5%	

学校ウェブサイトを調査する中で、トップページには、「フローの情報」にあたる、学校行事、学年行事、学級活動、部活動等の「活動の様子」を1週間単位での行事予定として掲載されているものが多かった。

また、堀田龍也らのアンケート調査によると、保護者の91%が学校ウェブサイトを見たことがあり、そのうち63%の保護者が、その更新頻度を「1週間に1回はしてほしい」と思っているが、その保護者も毎日は見ることができず、1週間に1回程度という結果が得られている。つまり、1週間に1回程度更新すると学校ウェブサイトに対する満足度が高くなることが報告されている⁷⁾。

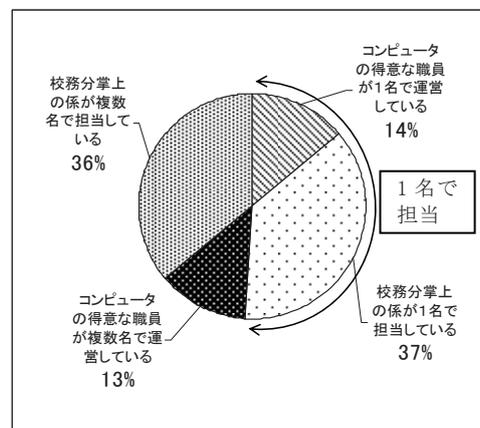


図3 学校ウェブサイト担当者の状況
研究紀要 第118集「学校ホームページによる情報発信の方法に関する研究」より

このことから、学校ウェブサイトにおいては、1週間に1回程度の頻度で更新する必要があると考える。

イ 運用体制について

学校ウェブサイトの担当者の状況については、図3に示すように、平成19年に当所が行った調査⁸⁾によると、学校ウェブサイトの運用は、1名の担当者で行っている学校が約半数を占めていることがわかった。また、主にコンピュータが得意な職員がかかわっていることもわかった。

図4に示すように、従来のウェブサイトの作成や更新には、担当者にウェブ言語（HTML）やFTP（ファイル転送プロトコル）などの専門的な知識やスキルが必要である。

今日では、ウェブページ作成用ソフトを活用し、レイアウトやデザインが豊かなウェブサイトの作成も、比較的容易にできるようにはなった。

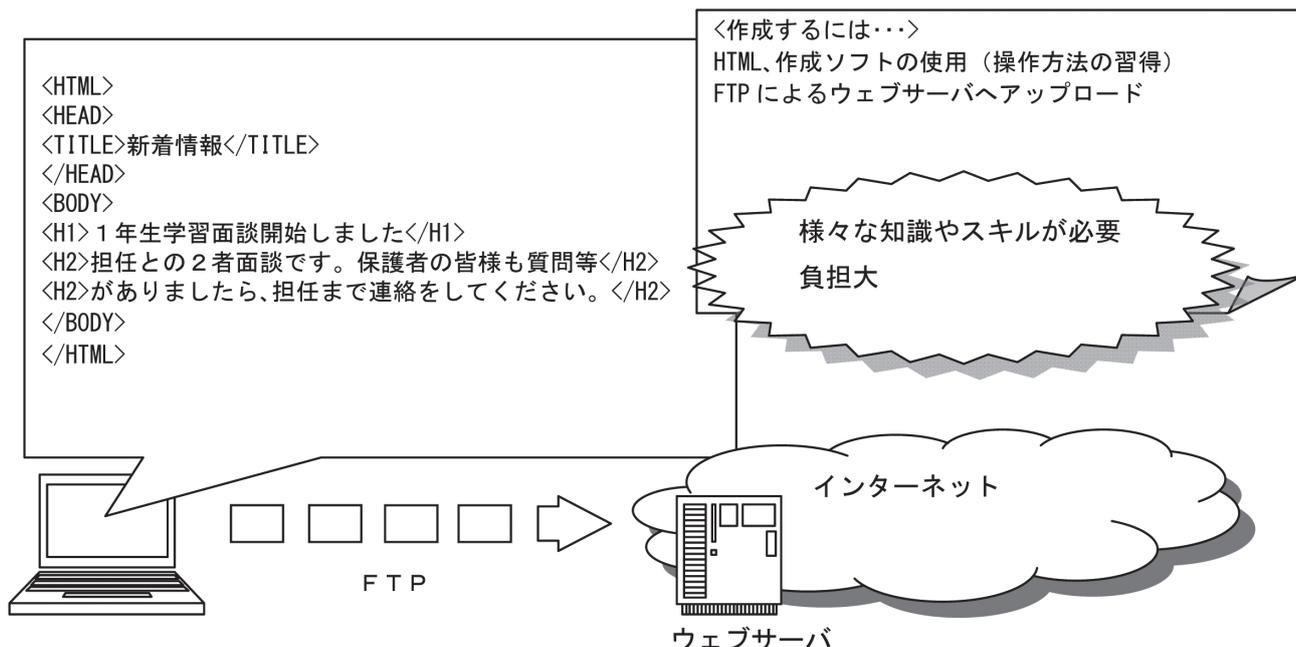


図4 従来のウェブサイトのページ作成

しかし、まず、作成ソフトの操作方法を覚える必要があり、画像の加工やリンクの整理などが複雑になるなど、専門的な知識やスキルがなお必要とされており、誰でもすぐに作成できるようにはならない。しかも、作成ソフトが限られたコンピュータのみにインストールされている状況であることが多く、誰でも使える状況にないことや、膨大な掲載情報の適切な整理が面倒であるなど、現状では、各学校のウェブサイト担当者に大きな負担となっている。

以上のことから、ウェブサイトの作成や更新に多くの担当者に関われる工夫、専門的な知識やスキルがなくても携われる工夫が必要であると考えます。

2 効果的な情報発信の条件

ここでは、「1 本県における学校ウェブ

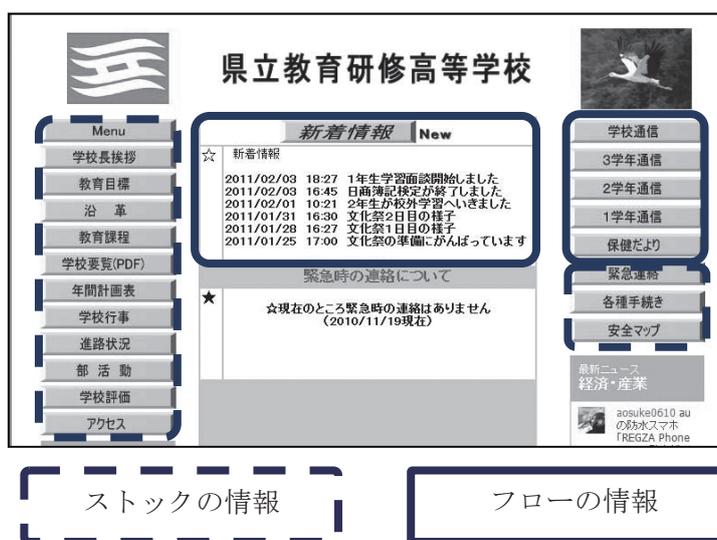


図5 ウェブサイトにおける「ストック情報」と「フロー情報」

サイトの現状と課題」をもとに、効果的な情報発信の条件について考察する。

(1) 「ストックの情報」と「フローの情報」の掲載の工夫

前述したように、掲載する情報を「ストックの情報」と「フローの情報」とに区別し、そのうち「フローの情報」は必要な時にできるだけ早く更新する必要がある。

図5は、代表的なウェブサイトのトップページの例であるが、一般的には、ウェブ言語（HTML）により情報を表やフレームでレイアウトし、必要な時にすぐに取り出せるように、内容ごとのページをつくり、リンクを貼ることで、わかりやすく分類整理しておく必要がある。

また、「フローの情報」では、新しい情報に更新されたことが閲覧者にわかるようにすることが重要であり、新着情報としてまとめて表示したり、タイトルに「NEW」などの表示を入れることで、更新状況がわかるようにするなどの工夫が必要である。

(2) 「フローの情報」の更新頻度を高める

平成19年に当所が行った調査⁹⁾では、本県の公立学校のウェブサイトの更新数と、閲覧回数との関係は相関があり、更新数が多い学校ウェブサイトは、その閲覧回数が増える傾向が見られた。このことから、更新頻度を高める工夫をすることが重要である。

「1(2)ア 運用について」の中で示したように、学校では1週間単位の行事予定が多いことや、保護者が期待する1週間単位での学校ウェブサイトの更新要望などを合わせると、少なくとも1週間単位での更新が必要である。また、「1(2)イ 運用体制について」の中で示したように、この学校ウェブサイトの更新は、一部の担当者によって行われるのではなく、できるだけ多くの教員が更新に関わる必要がある。例えば、学校行事、学年行事、学級活動、部活動等に掲載内容を分け、それぞれ担当を決め、情報を収集し、担当部分のページ作成ができる運用体制を整える必要があると考えられる。

3 効果的な情報発信のためのウェブサイトモデルの提案

(1) ブログ¹⁰⁾の活用

前章に示した効果的な情報発信の条件を満たすためには、「フローの情報」を簡単に発信できるようにすることが不可欠である。最近では、従来のウェブサイトの作成や管理において必要であった専門的な知識やスキルがなくても、ウェブ上でサイト作成や管理ができるCMS（コンテンツ・マネジメント・システム）を活用したウェブサイトが多く見られるようになった。

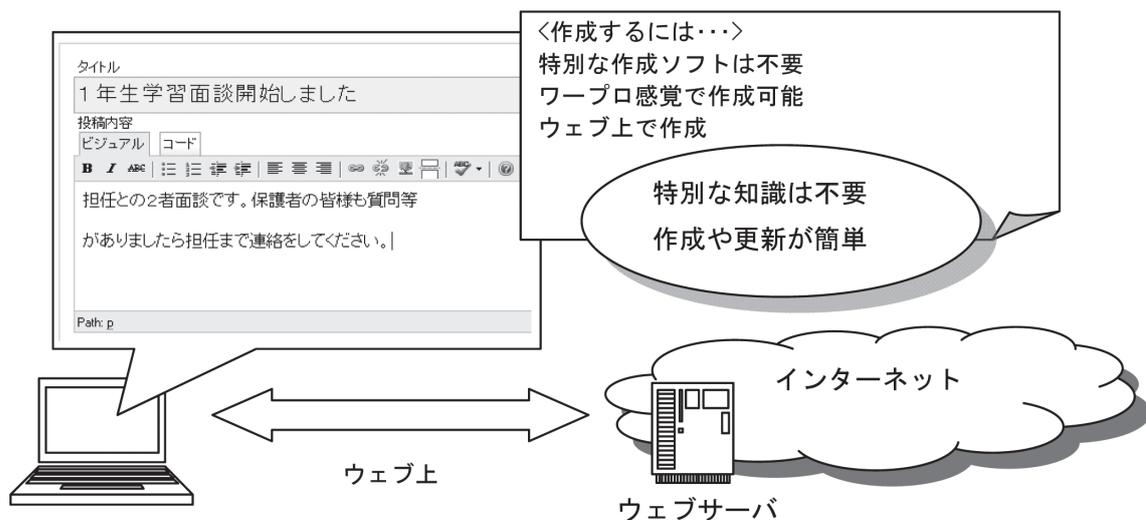


図6 ブログのページ作成

図6に示すように、ここでは、インターネットが使える環境なら、どのパソコンからでもブラウザソフトを用いて閲覧でき、また、特別なツールやソフトウェアも使わずにワープロ感覚で簡単にページの作成や更新ができるCMSの一種であるブログを活用することについて考えた。

(2) 従来のウェブサイトとブログの融合

各学校においては、それぞれの実態に応じた工夫や特徴を備えたウェブサイトの運営を行っているので、ブログを活用して全て最初からウェブサイトをつくり変えるには、非常に手間がかかる。そこで、従来のウェブサイトにブログを融合させたウェブサイトモデルを提案する。

ア ブログの利点を生かす

表4は、従来のウェブサイトとブログとの違いをまとめたものである。

従来のウェブサイトでは、テーマごとに情報が整理され見やすいため、「ストックの情報」の発信に適している。しかし、情報を更新するには、ウェブ言語（HTML）とFTP（ファイル転送プロトコル）による手間と時間を要するので、担当者の負担になっている。一方、ブログは、情報を時系列的に表示し、新しい情報を簡単に発信することができるため、「フローの情報」の発信に適している。

このような利点を持つブログと、従来のウェブサイトを融合させることで、簡単に「フローの情報」の更新が可能となり、図7に示すように更新頻度が高くなることで閲覧者（回数）の増加につながることが期待できる。

イ 更新情報を自動的に表示するしくみ

ブログには、RSSという情報を発信する機能が備わっており、インターネット上に共通な形式で配信することができる。このRSSを自動取得できるスクリプト¹¹⁾をウェブサイトに埋め込むと、ブログの最新情報を自動的にウェブページに表示させることができる。このしくみを使えば、ブログを更新すると、自動的に更新したブログページのタイトルを学校ウェブサイトの最新情報欄やお知らせ欄に簡単に表示させることができる。

(3) ウェブサイトモデルの提案

本研究で構築したウェブサイトモデルを図8に示す。更新頻度が高い「フローの情報」の記事をブログで作成し、公開すると同時にRSSによりブログ記事を発信し（画面1）、そのブログのRSSを自動取得できるスクリプトを埋め込んだウェブサイトの「最新情報」や「お知らせ」欄にブログ記事のタイトルを自動表示させる（画面2）。そこから、そのタイトルのブログ記事閲覧できる（画面3）。このしくみにより、従来と比較して、非常に効率的に更新情報を閲覧者に知らせることができる。

表4 従来のウェブサイトとブログの比較

	従来のウェブサイト	ブログ
情報表示	見やすいページ構成 →テーマごとに情報表示	見づらいページ構成 →時系列での情報表示
管理負担	更新が面倒 →担当者に負担	更新が簡単 →複数で分担可能

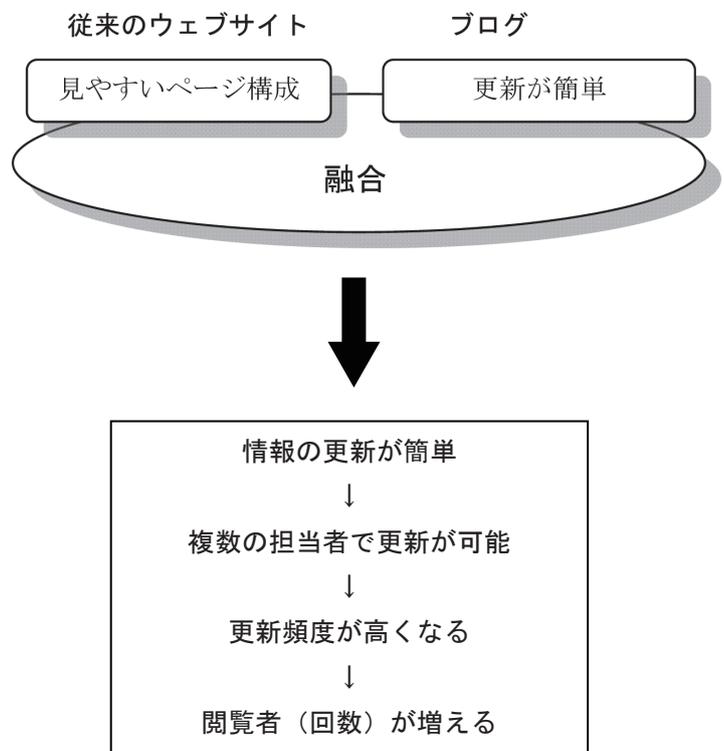


図7 従来のウェブサイトとブログとの融合

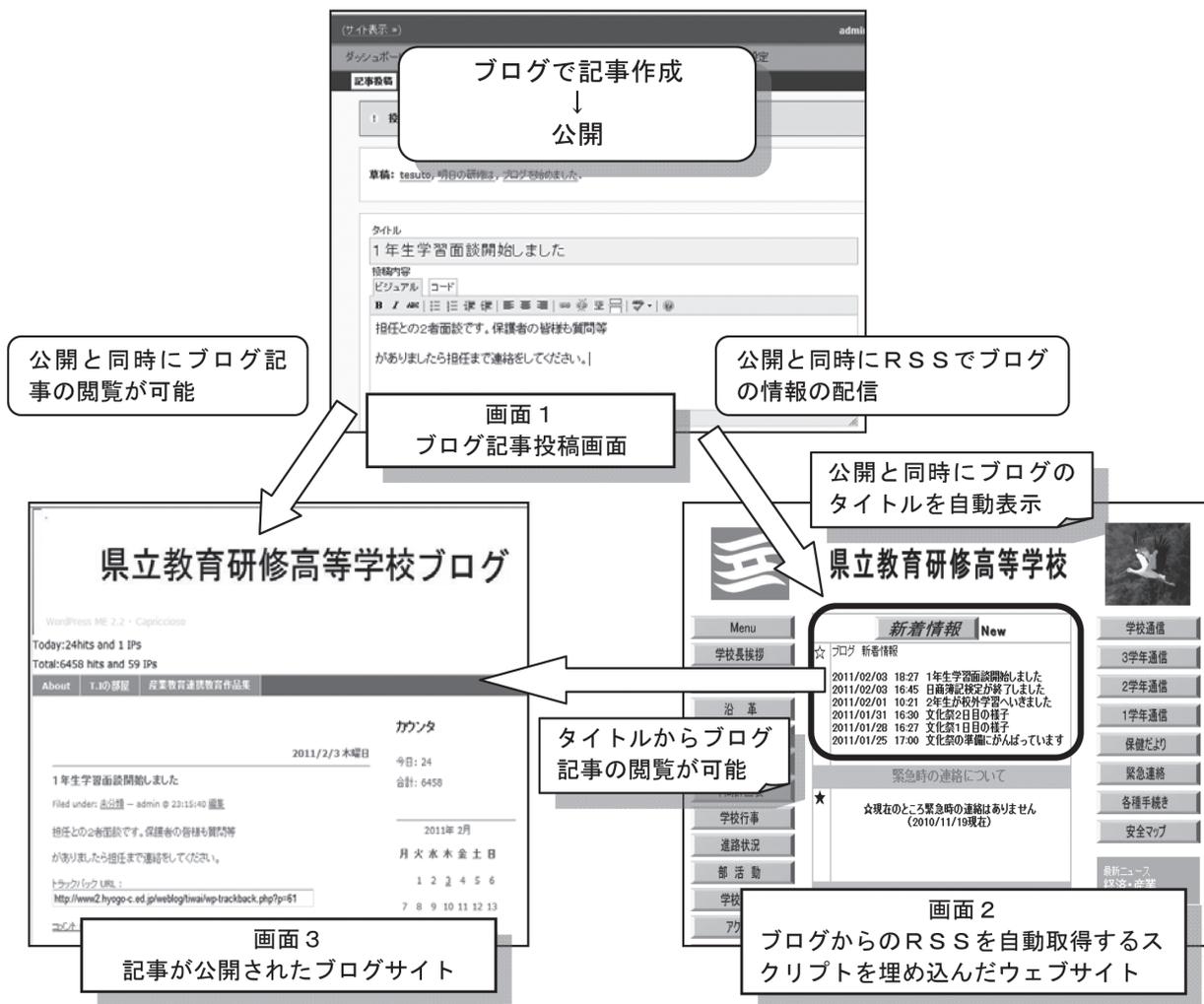


図8 ウェブサイトモデルの概要

なお、県立学校182校の学校ウェブサイト調査では、ブログの活用を行っているのは35校だけであった。学校ウェブサイトのトップページのデザインは、画面2に示したものが多いが、実は新着情報は従来のようにウェブ言語（HTML）とFTP（ファイル転送プロトコル）で運用している。また、前述のサイトモデルの形をとっている学校ウェブサイトは1校のみであり、当所への相談があり構築したものであった。他の多数の利用の仕方は、ウェブサイトから単に「〇〇高校ブログへ」などのリンクボタンにブログへのリンクを貼るだけのものであった。

4 ウェブサイトモデルの成果と課題

ここでは、従来の学校ウェブサイトでの運用を基本としながら、掲載内容のうち「フローの情報」をブログで作成したウェブサイトモデルについて考察する。

(1) ウェブサイトモデルの成果

このウェブサイトモデルについて、当所の「ホームページ入門講座」「校内ネットワーク活用講座」受講者に示したところ表5に示すような感想を得た。

従来のウェブサイトとブログとを融合させることで、ウェブページの作成や更新が容易になり、更新頻度が増し、最終的には閲覧者の増加につながるという感想が多く得られた。

表5 ウェブサイトモデルに関する受講者の感想

- ・従来のようなウェブ言語（HTML）やFTP（ファイル転送プロトコル）の知識がなくても、ウェブ上から記事の入力ができて便利である。
- ・インターネットの環境があれば、修学旅行先からも記事の入力ができて便利である。
- ・ウェブ上でページ作成が可能であるので、複数の担当で作成を分担できる。
- ・情報の更新が簡単になり、複数の担当で様々な情報を収集、作成でき、更新頻度も高くなる。
- ・更新頻度が高くなると、閲覧者及び閲覧回数も増えることが期待できる。
- ・更新情報のタイトルが、従来のウェブサイトのトップページに自動表示されるので、更新状況を把握しやすい。

(2) ウェブサイトモデルの課題と対応

3 (3)で提案したウェブサイトモデルでは、ブログの活用により、多数の担当者が関わり、組織的かつ頻繁に情報を発信することが可能になるが、このことは、よく中味を確認せずに安易に情報を発信してしまうことにつながりやすい。

学校の情報は個人情報が多く含まれ、内容については必ず複数の担当で確認するなど、各学校において従来の運用体制を再点検し、情報の発信前に十分に内容のチェックができる体制づくりや、公開までのルールづくりが重要となる。

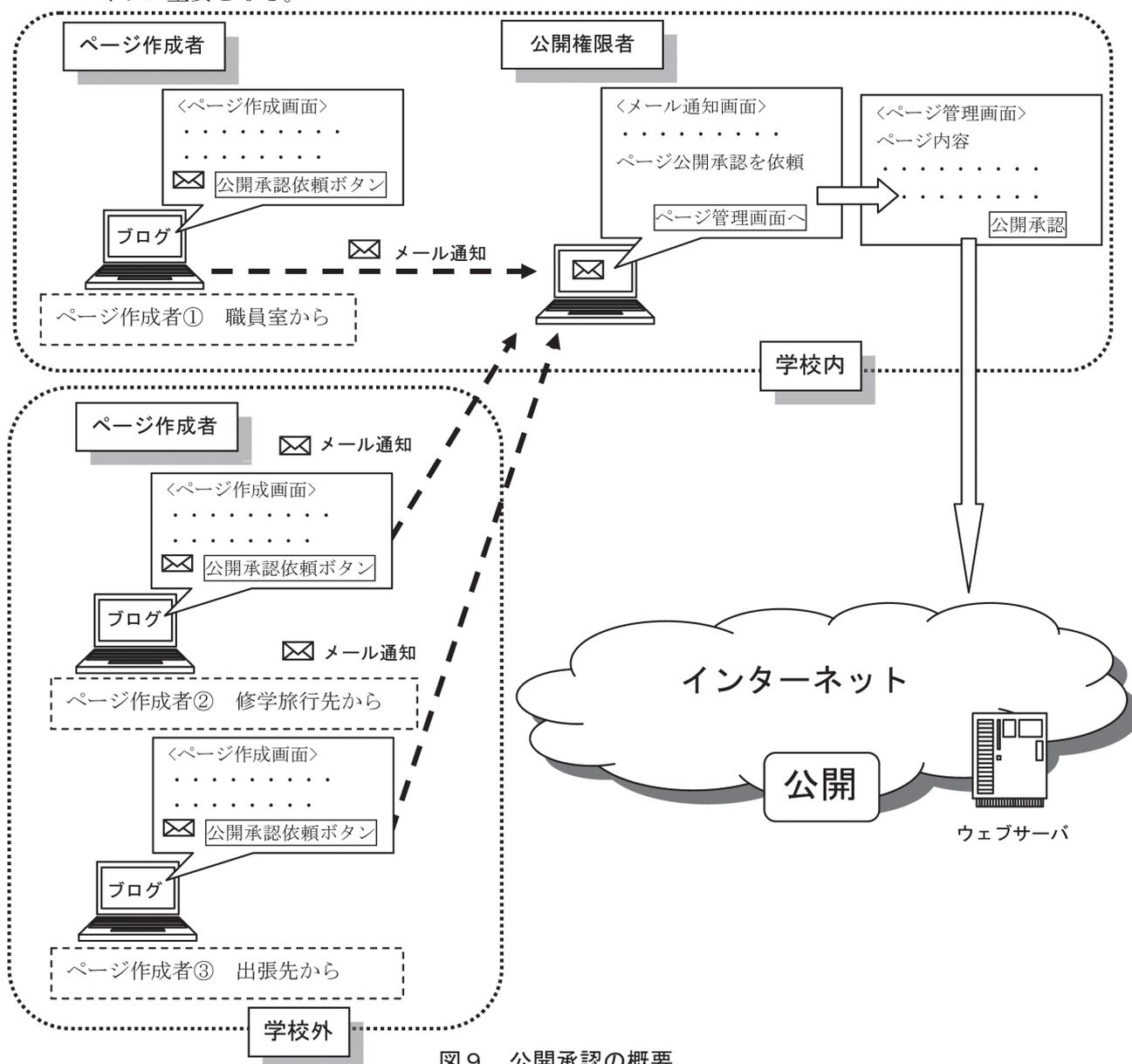


図9 公開承認の概要

そこで、次のような査読・承認システムの構築もあわせて提案したい。

査読・承認システムは、図9に示すように、公開権限を持たないページ作成者が、ページ作成をした際、その作成画面から公開承認を受けたいページ情報と公開依頼の通知をメールにて公開権限者に連絡し、公開権限者がそのメールから直接公開依頼を受けたページの管理画面に移り、ページ内容を確認して公開するというものである。メールでの承認依頼であれば、日常の業務の中でメールの確認は常に行うものである。公開承認が遅れる可能性も低いと考えられる。このようなシステムを構築することは、安易な情報発信にならないようにするための工夫である。

本来、学校ウェブサイトは、保護者や地域に学校の教育活動全般に関する情報を発信することで、理解・信頼・協力を得て、児童生徒の安全・安心のために機能しなければならない。その前提として、システム的な工夫に加えて、教職員のウェブサイトに対する情報セキュリティと情報モラルに対する意識を高めていかななくてはならない。まずは、管理職が率先して意識を高めるとともに、校内での研修を通じてさらに教職員の意識を高める校内体制へ改善していくことが重要であると考えられる。

おわりに

平成17年に実施された文部科学省の「義務教育に関する意識調査」によると、保護者の学校に対する満足度は約70%であったが、「学校の情報を保護者に伝えること」に関する満足度は約50%と低い。情報が十分に得られることで、相手を身近に感じ、信頼を抱くことにつながるが、逆に得られる内容が少なかったり、形式的であった場合、信頼を得ることが難しい。学校から正確で迅速な情報発信を行うことで、保護者や地域からの信頼感が深まるのである。

また、豊福晋平(2006)によれば、学校ウェブサイトの目的として、ニュースとしての目的(広報・連絡・説明責任)、人をつなぐという目的(地域拠点・情報拠点・活動拠点)そしてアーカイブ(書庫)・ミュージアム(資料館)としての目的(情報の蓄積・資料)の3点をあげている¹²⁾。さらに学校評価ガイドラインには、学校全体の状況を把握できるような情報が提供されていることが、保護者等が的確な学校関係者評価を行うなど学校の諸活動に参画していく上で重要であるとしている。そして、それらの情報提供の在り方として、「ホームページを活用した情報提供」を挙げている¹³⁾。自校の学校ウェブサイトの閲覧者についてのアンケート¹⁴⁾には、保護者、生徒、地域の住民という回答が多く、保護者や地域住民を意識したウェブサイトを運営していることが伺える。保護者や地域住民の満足感や学校に対する要望、期待にこたえていくことは、学校への理解・信頼・協力を得るために重要である。しかし、全ての要望、期待にこたえることはできない。この現実を理解してもらうためにも説明責任を果たすことが重要になる。そのためにも、学校ウェブサイトにより、学校の教育活動の様子や課題を積極的に発信していかなければならない。今回提示したウェブサイトモデルがその一助となれば幸いである。

最後に、本研究に関して様々な資料収集や調査に協力いただいた方々に感謝したい。

注)

- 1) 文部科学省『平成15年度文部科学白書』, 国立印刷局, 2003, p. 192
- 2) 難波宏司、佐藤勝彦、武田由哉、米谷 繁「学校ホームページによる情報発信の方法に関する研究」『研究紀要第118集』, 兵庫県立教育研修所, 2008, p. 45
- 3) 文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(平成21年度)」, 2010
- 4) ウェブ言語とは、ウェブ上で動くプログラムの総称で、一般的にHTMLなどがウェブサイトの言語である。

- 5) F T P (ファイル転送プロトコル) とはネットワークでファイルの転送を行うための通信プロトコルである。ウェブページの各種データファイルをウェブサーバへアップロードするときに利用される。
- 6) 難波宏司、佐藤勝彦、武田由哉、米谷 繁 前掲書, p. 50
- 7) 石塚丈晴、堀田龍也『学校ウェブサイト活用法』, 高陵社書店, 2005, p. 100
- 8) 難波宏司、佐藤勝彦、武田由哉、米谷 繁 前掲書, p. 47
- 9) 難波宏司、佐藤勝彦、武田由哉、米谷 繁 前掲書, p. 53
- 10) ブログとは、時系列的に更新されるウェブサイトの総称であり、「Web」と「Log」(日誌)を一語に綴った「weblog」(ウェブログ)という言葉が誕生し、それを略して「blog」(ブログ)と呼ばれている。
- 11) スクリプトとは、ある一定の処理をする簡易的なプログラムをいう。
- 12) 豊福晋平「学校関連の情報扱いに関する考察」『日本教育情報学会 22 回年会論文集』, 2006
- 13) 文部科学省「学校評価ガイドライン (平成 22 年改訂)」, 2010, pp. 35-37
- 14) 平成 22 年度に当所で実施した「教育の情報化」に関する講座受講者 95 名に対するアンケートを指す。

<参考文献>

- ・文部科学省『教育の情報化に関する手引』, 2010
- ・文部科学省『学校評価ガイドライン (平成 22 年改訂)』, 2010
- ・「学校ホームページによる情報発信の方法に関する研究」『研究紀要第 118 集』, 兵庫県立教育研修所, 2008
- ・文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果 (平成 21 年度)」, 2010
- ・(財)コンピュータ教育開発センター「教員事務負担軽減システム要件調査」, 2004
- ・豊福晋平「学校ウェブサイトの利用者意識調査」, 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター, 2005
- ・石塚丈晴、堀田龍也『学校ウェブサイト活用法』, 高陵社書店, 2005
- ・中川一史、稲垣 忠『すぐできる! 教育ブログ活用入門』, 明治図書, 2006